

令和2年度 第1回第6次東員町総合計画策定審議会 要点録

日 時	令和2年11月17日(火) 午後7時～午後8時40分
場 所	東員町役場 西庁舎 201、202、203 会議室
出 席 者	委 員 14名(欠席者なし) 事 務 局 副町長、東員町政策課3名

事項

- 1 あいさつ
- 2 第6次東員町総合計画の素案について
- 3 意見交換

2 第6次東員町総合計画の素案について

- ・第6次総合計画策定経過及び今後のスケジュールについて【資料1】
- ・第6次東員町総合計画素案【資料2】
- ・令和元年度第2回第6次東員町総合計画策定審議会要点録
- ・東員町総合計画策定レポート

事務局	資料1, 2、要点録、レポートについて説明を行う。
委員	まずは質問があれば意見をいただきたい。
委員	資料2のまちづくりアンケートのデータを使っている部分は、母数を表記した方が理解しやすいのでは。
事務局	母数を表記する。
委員	資料2のP.9で合計特殊出生率が2.0を割り込んだのは1975年ではなく1974年ではないか。
事務局	合計特殊出生率が2.0を割り込んだのは1975年だが、前文で人口置換水準の記述があるので、人口置換水準2.07を下回った1974年となるよう調整する。
委員	資料2のP.15で第6次総合計画とまち・ひと・しごと総合戦略は一体として捉えることから、総合戦略の施策を示した後に、総合計画の重点施策とした方が良いのではないか。
事務局	総合戦略の施策を示した後に、総合計画の重点施策を表記する方向で進める。
委員	資料2のP.48で首都圏一極集中の状況から新型コロナウイルスの関係でワーケーションなどの新たな暮らしカタが生まれつつある。今後、この首都圏一極集中がいつまでも続くかどうかは分からない。この図を入れておくかどうか検討をお願いしたい。
委員	資料2のP.51で東員町の将来人口推計のグラフだが社人研推計となっている。総合戦略の東員町独自の人口推計を入れてはどうか。

事務局	総合戦略の東員町独自の人口推計を精査したうえで反映させたい。
委員	続いて、意見交換としたい。自由に発言していただきたい。
委員	資料2のP.8で「おみごと！があふれる町へ」と記載があるが、最近新聞などで住みやすさのランキングで三重県内で上位にあがっていたが、その記事に連動させているのか。
事務局	東員町が新聞記事をはじめ経済誌や観光雑誌で取り扱われることが多くなったという印象がある。「おみごと！があふれる町へ」というフレーズは6年前から使っており、住みやすい町というのを目指しているの、その結果が記事に結びついているのではないかと。
委員	資料2のP.14で重点施策として、稼げるまちが掲げられ農業の振興と商工業の振興とあるが、東員町自体が小さな町なので農業できる面積も小さい。どういった施策を展開するつもりなのか。
事務局	農業に関しては新産業創造プロジェクトの1つの施策であるマメマチプロジェクトがあり、大豆を中心とした特産品が認定され6次産業化が進みつつある。また商工業としては、この特産品を飲食店などで展開していけば商工業にも寄与できる。
委員	資料2のP.15で総合戦略の基本目標4について、世界や日本の情勢から考えると脱炭素社会または低炭素社会について施策4-6に追記するなどして明記した方が良いのではないかと。
委員	資料2のP.45以降の記述について、世界の状況も必要だが、東員町が三重県内でどういう位置にいるのかを示しても良いのではないかと。
委員	資料2のP.54でまちづくりアンケート結果をグラフ化したもので、この説明をもう少し詳しく説明を入れても良いのではないかと。またここから東員町の強みや弱みを掴むことができ、これから何に力を入れていくかをSDGsに絡めて明示してはどうか。
委員	アンケートなどで、なぜ子どもを持たないのかあるいは子どもが1人と答える方に対して2人目を考えるためには何が必要かといった内容を聞くことはできないかと。
事務局	平成27年にまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定する際にアンケートを実施したが、経済的な不安が主な要因であると考えている。その結果をもとに施策は実施している。
委員	資料2のP.35で農業の振興について、後継者や優良農地が減ってきている。こうしたことを具体的に表現していくべきではないかと思う。認定農業者数をKPIに設定しているがなかなか達成するのは難しい。特産品に関してこれからも認定が進んでいくのか。また「おみごと！」も進めていくのか。
事務局	具体的な表現は各課が毎年計画していく実施計画や分野別計画で表現していく。特産品の認定は今後もみなさんの「おみごと！」として進めていきたい。また農業以外の分野でも様々な「おみごと！」があり、広く進めていきたい。
委員	三重県内の23商工会在多気町にアンテナショップが開設された、東員町でも5点の出品があり好評を得ている。

委員	資料2のP.38で安全安心とあるが、自治会独自で防犯カメラの導入をした。治安を良くするためのものだが、共働き世帯も安心して仕事へ行けることにもなり、新たな転入にもつながると考えている。話は変わるがブルーベリーやぶどうの実証実験をしていたが、その後の発展を聞かないがどうなっているのか。
委員	ブルーベリーについては昨年の給食メニューでケーキの上に東員町産のブルーベリーを使用した。東員町産の大豆を使用した豆腐を献立に入れていくことも考えている。また防災の面で桑名では、仮設住宅を建てる場所を確保する取り組みもしている。せっかく取り組んでいるのでもう少し周知してもらえたらと思う。
委員	資料2のP.34のスポーツの振興で今年は新型コロナウイルスの関係でイベントが中止となってしまう、来年度のイベントも廃止を含め検討が進められ危惧している。
委員	資料2のP.11でSDGsの認知度が低いと感じる。イベントなども今年は難しかったと思うが周知に取り組んで欲しい。
委員	体育館をはじめとした施設が老朽化している、これをどう整備していくのか。
事務局	資料2のP.12で横断的分野別計画にある東員町公共施設等総合管理計画というものが、これを基に計画的かつ過度な財政的な負担とならないよう平準化させて維持管理している。
委員	65歳以上の方を高齢者調査でまわっている。地域のカフェなど良い取り組みがあるが、決まった人の参加が多い印象がある。高齢者の方をどうやって支援していけば良いか困っている。
委員	コロナで様々な会議や集まりができない。オンラインのつながりは今後大切になる。
委員	資料2のP.9で縮小社会というマイナスイメージの表記がある。具体的にどう縮小していくのか。
事務局	現在は転入超過で人口増の状態だが、今後は女性の数も減り、合計特殊出生率も人口置換水準を下回っていることから、確実に人口は減少に向かっている。そのため資料2のP.10にもあるように、縮小しながらも充実するという考え方が重要であると考え。新しいものを多く作り出す経済成長の時代から、今あるものを大切にしていく。また、あふれるものが減少していく中で本当に大切なもの、幸せに必要なものを見定めることで、縮小しながらも充実するのではないかと。
委員	これまでは、ないものねだりが出来たが、人口のピークを越えた今はあるもの探しの時代となる。
委員	閉会となるがなにか事務局からの連絡は。
事務局	審議会以降も意見などあればご連絡いただきたい。また今後のスケジュールとして、1月にパブリックコメントを実施した後の2月17日(水)午後7時から同じ場所第2回審議会を実施する予定である。

以上